

肥満と感染症のリスク

フィンランド ヘルシンキ大学から

新型コロナウイルスの感染拡大の際、肥満がCOVID-19感染症の重症化の独立したリスク因子であることが報告され、肥満と感染症のリスクが注目されました。肥満は慢性炎症、免疫応答の低下、インスリン抵抗性、気道粘液分泌異常などを通じて感染防御力を弱め、感染症全般の重症化リスクを高めると考えられています。

今回紹介する研究では、成人の肥満と様々な感染症の重症化リスクとの関係をフィンランドとイギリスの50万人を超える大規模な臨床データを用いて検討しました。

研究の登録者はBMIを基準に、正常体重(18.5-24.9)、過体重(25.0-29.9)、肥満(30以上)に分類されました。最大22年間の追跡で「入院を要する感染症」または「感染症死亡」について調査されました。

その結果、(1)感染症による入院・死亡のリスクは肥満の度合いが高いほど上昇することが示され、特にBMI40以上の肥満者では正常体重に比べ、入院、死亡リスクがともに約3倍上昇し、この関連はすべての感染症で同様にみられることがわかりました。また(2)「肥満」から「過体重または正常」への減量で感染リスクは0.8倍に低下し、一方、「過体重」から「肥満」への変化で感染リスクは1.3倍に上昇することから、感染症のリスクは肥満によって増悪し、減量により改善することも示されています。(3)さらにこの研究では世界の感染症死亡の約10%程度が肥満に起因することも明らかにされました。

この研究は、成人肥満が非常に広範な感染症の重症化リスクを高める独立した因子であることを、50万人以上のデータで示したものです。肥満は代謝疾患や心血管疾患ばかりではなく、世界規模であらゆる感染症の重症化に関与していることが明らかとなりました。肥満対策が感染症予防戦略の一部としても大変重要であることを示しています。

引用論文

Nyberg ST, et al. Adult obesity and risk of severe infections: a multicohort study with global burden estimates. Lancet. 407(10532): 951-962, 2026

記事紹介

熊本大学病院 糖尿病・代謝・内分泌内科 准教授 瀬ノ口隆文